



こんにちは。笠間市地域包括支援センターです。

秋らしい日が増えましたね。季節の変わり目、体調を崩さないようご自愛ください。

さて、9月に個別事例検討会議を開催し、「認認介護で支援がうまく進まないケース」について話し合いました。本人に関わるケアマネジャー、ヘルパー、看護師等が参加しました。

★認認介護で支援がうまく進まないケースについて検討

高齢夫婦が2人とも認知症です。夫は介護保険サービスを利用していますが、妻に対する暴言・暴力があるほか、支援者に対しても介護拒否やセクハラがあるため、関係者が困っています。また、妻は夫に対する過干渉があり、夫を怒らせてしまうため、関係者は妻の過干渉が夫の不穏を助長していると判断しています。この世帯には息子夫婦が同居しており、認知症の進行に問題意識をもって対応していることが分かりました。

参加者からは「夫を外に連れ出す工夫

を考えてはどうか」「妻が外に目を向けられるようにしてはどうか」「認知症カフェを利用してはどうか」などの意見が出ました。

今後は家族の協力を得ながら、妻の過干渉によるトラブルを避けるために、夫か妻が外に出かけることでそれぞれの時間を持てるよう、ケアマネジャーが主動して働きかけていくこととなりました。そのために、本人らの生活歴を掘り下げてアセスメントし、外出のきっかけとなるヒントを探ることとなりました。

＊＊5月の検討事例の経過報告＊＊

★「通所介護や福祉用貸与の支払いが滞り、サービスの継続が難しいケース」

ケアマネジャー・包括職員が訪問し本人と面会したところ、緊急に治療を要する疾患が見つかったため、入院加療を経て介護施設に入所となり、世帯分離されたことで生活保護受給を開始しました。施設入所生活を継続できるかどうかは家族の支援にかかっているため、見守りを継続しています。

検討事例募集中

困難事例でお悩みでしたら、一緒に事例検討しませんか？
下記までご連絡よろしくお願ひいたします。

